

アカゲラ通信



シマエナガあれこれ

シマエナガは今や世の中にグッズがあふれ、北海道土産でも定番、すっかり人気者となりました。しかし、シマエナガにはまだ、思い違いや誤解があるようです。

●シマエナガは冬しか見られない？ 雪の中を飛んだりつららをなめたりと、冬の写真を多く見るシマエナガは冬にしか見られない鳥（冬鳥）だと思っている人が意外と多いです。

シマエナガは渡りや季節による移動はしない留鳥で、旭山でも一年中見られます。

ただ、秋から冬には群れで行動していて出会う頻度が高くて観察しやすく、冬は羽がふっくらとしてよりかわいらしく見えるので、冬の鳥というイメージが強いのでしょう。

また、夏の間は見られる頻度が落ちるのも確かですし、シマエナガに限らずですが、夏は木々の葉が生い茂り小さな鳥を見つけて撮影するのも大変ということもあるでしょう。

●シマエナガは道東に行かないと見られない？ これも巷でよく聞く声の一つで、「道東」に限らず北海道のある特定の場所に行かないと見られない鳥だと思っている人も意外と多いようです。

シマエナガはどこにでもいる普通種で、それまで気づいていなかっただけで自宅の周りにも飛んで来ていたというケースも多々あります。

●シマエナガは森の奥深くにいる？ シマエナガは森と開けた場所が接した所にいる鳥で、むしろ人の近くで生活しています。

農耕地の防風林や河畔林でも見られますが、山地から離れて孤立した林にはいません。亜高山以上の高標高地にもいません。

●シマエナガの翼の羽は茶色い？ 世の中にあふれるグッズを見ていると、あることに気づきます。

シマエナガの翼の羽には黒ともう1つの色がついている部分がありますが、そのもう1つが「茶色」く作られているものが多い、というかほとんどそうです。

その羽は淡い「葡萄色」に見えますが、どうでしょうか？

●こんな場所でもシマエナガ：高速道路のパーキングエリアやサービスエリアは山の近くの開けた場所でもあり、実はシマエナガがよく現れる場所のひとつです。

また、河口近くでも河畔林がつながっていれば飛んで来ます。

具体的には青い池（美瑛）、拓真館（同）、岩見沢PA（岩見沢）、美々PA（千歳）、旧長都沼（同）、ウトナイ湖（苫小牧）、鵡川河口（むかわ）等で見たことがあります。

●本州のエナガか？ シマエナガでも目にかかる黒い帯が遅くまで抜けない個体が時々見られます。

●シマエナガの巣を見つめないで！ シマエナガは3月頃から巣作りを始めますが、神経質で、人が頻繁に通る場所では巣を途中で放棄することがよくあります。

また、人間が巣を見ていると、その様子を観察していたハシブトガラスがそこに巣があることを察し、巣を壊してしまうこともあります。

シマエナガの巣に気づいたら、次から巣には近づかず、巣を見ないようにしたいです。



旭山記念公園元旦初日の出情報 2024

2024年元旦初日の出、旭山記念公園では今年も通常より1時間早く5時に駐車場を開門します。

当日は警備員を配置しておりますので、指示に従ってください。

元日の日の出時刻は7時6分ですが、毎年6時40分には駐車場が満車となります。

路上駐車は迷惑になりますので決してしないようお願いします。

2023年は地平線から上る太陽は見えなかったものの、藻岩山平和の塔上空の雲の切れ間からほんの数分だけ太陽が顔を出し、なんとか初日の出を拝めました。2024年はどうなるでしょうか？

旭山野鳥メモ 56 ハシブトガラ

ハシブトガラ Marsh Tit *Poecile palustris* スズメ目シジュウカラ科
留鳥。年中同じ場所で見られ、季節による小移動もしない。

日本では北海道にのみ生息。平地から山地まで普通に見られるが、奥深い山林にはいない。ただし英語名の"marsh"は「沼沢地」の意味だが、そのような場所に多いわけでもない。

警戒心が薄く人に慣れやすい。旭山では時々隠れて餌付けをしている人がいるらしく、餌がなくても人を見るとそばに寄って来るほど慣れた個体が現れる。2023年12月現在そのような個体がいる。他のカラ類よりも草本植物の種子をよく食べる傾向にある。

コガラとの混同がよく話題になるが、相違点をハシブトガラ側からの視点で挙げると①黒い頭部に光沢がある②嘴上下の会合部が先から付け根まで白い③嘴が短く太い④足がささくれだって見える⑤次列風切羽が白く浮き立っては見えない⑥角尾。写真撮影した上で確実なのは②、他の条件は相対的かつ曖昧で、その時の光線状態にも左右され分かりにくい。ただし⑤は条件によりコガラは白く浮き立って見えることがある。

ハシブトガラとコガラの混同を「楽しむ」ことができる北海道のバードウォッチャーの特典である。

そしてハシブトガラの「困った」点、下から見るとシマエナガと見間違いややすいこと。全体的に白く尾が長めに見える。ただしその白い体も夏には幾分褐色がかかった羽になる。

ともあれ、「黒いベレー帽」に「黒い蝶ネクタイ」、愛嬌があって近くに必ずいてほしい野鳥のひとつだ。



2023年12月の野鳥トピックス

- イスカ：旭山では10/13初認。イスカは例年秋と春に何度か通過個体が見られますが、越冬することはほとんどないです
- ウソ：11月後半から園内で日に何度も声を聞くようになっており、亜種アカウソの観察情報もあります（右写真上）
- マヒワ：10月中に一時数羽で来ていましたが、11月中旬以降ほとんど見られなくなっています
- ツグミ：12月に入りあまり見られなくなりました
- ヒレンジャク：30羽前後見られる日もありますが少ないです
- キレンジャク：ヒレンジャクに混じっていることがあります
- カケス（亜種ミヤマカケス）：観察機会は多いです
- キクイタダキ：10月からしばしば見られていますが観察機会はまだ少なく、これから期待です
- キバシリ：今年はしばしば見られています（右写真下）
- ミソサザイ：笹藪のある斜面で見られるようになりました
- クマゲラ：園内に時々やって来ますがまだ少ないです
- オオアカゲラ：雌雄とも観察機会は多いです
- ヤマゲラ：「ピヨッピヨッピヨッ」という声を聞くことが多くなり時々近くで見られています



2024年の春はキタコブシの花がたくさん咲く！



森の家の前のキタコブシ、今年は花が咲く大きな冬芽をたくさんつけています。（写真左2枚とも）
今年の春は花が少なかったですが、来年の春は花がたくさん咲くでしょう！
散策の際に探してみてはいかがですか！

